

毛包周囲に炎症細胞浸潤がみられるが、真皮で菌は増殖していない。

9. 白癬菌性肉芽腫 にくげ granuloma trichophyticum

同義語：Majocchi granuloma

下腿の体部白癬などに対してステロイド外用薬を誤用、乱用すると、皮内、皮下に結節を生じることがある。扁平隆起した湿潤性局面や大きな腫瘤状局面を形成することもあり、臨床的に硬結性紅斑（18章p.355参照）との鑑別を要する（図25.12）。

b. カンジダ症 candidiasis

Essence

- カンジダ属による皮膚および粘膜感染症。
- 病変部位と症状から、カンジダ性間擦疹、乳児寄生菌性紅斑、カンジダ性爪囲炎、がこうそう 鷲口瘡などの病名が冠される。
- 水仕事従事者の職業病、性感染症（STI）、日和見感染としての側面をもつ。
- 治療は病変部の清潔と乾燥化、イミダゾール系抗真菌薬外用など。

分類・病因・症状

カンジダ属は、培養条件により酵母と菌糸の形態をとる二相性真菌（酵母様真菌）の一種である。病原性のあるカンジダ属は7～10種類存在する（表25.2）が、大部分は *Candida albicans* による。カンジダ属は健常人の口腔、糞便、陰に常在しているため、病変部位から培養されただけではカンジダ症と診断することはできない。鱗屑、たいげ 帯下、爪などを直接鏡検して、カンジダが観察される程度に増殖していることを証明する必要がある。糖尿病やステロイド長期内服、AIDS患者など免疫能低下状態にあるとカンジダ症を発症しやすく、消化管カンジダ症などの内臓病変も形成しうる。すなわち、内因性真菌症あるいは日和見感染としての側面をもつ。

診断

KOH直接鏡検法で、ブドウ状胞子と仮性菌糸を証明する（図25.13）。胞子が存在する、菌糸に隔壁がなく分枝状になっている点が白癬との鑑別になる。膿疱、鱗屑、爪の角質、はくたい 白苔や帯下を、メスや粘着テープなどを用いて採取する。また、Sab-



図 25.12 白癬菌性肉芽腫 (granuloma trichophyticum)

体部白癬を湿疹と誤診され、ステロイド外用薬を長期間使用したことにより、浸潤性病変を生じた例。

表 25.2 ヒトから培養される主なカンジダ属の菌種

--	--

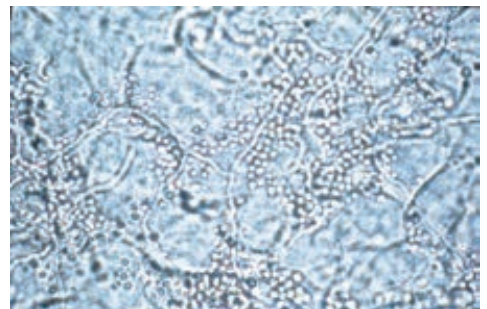


図 25.13 カンジダの KOH 光学顕微鏡像
糸状の仮性菌糸とブドウ状胞子を認める。

β-D-グルカン

MEMO



図 25.14 カンジダ性指趾間びらん症 (erosio interdigitalis blastomycetica)
第3指間が好発部位である。



図 25.15 カンジダ性爪囲炎 (candidal paronychia)

ouraud ブドウ糖寒天培地に 25℃ で培養すると、2～3 日で白色からクリーム色の集落を形成する。カンジダ血症や内臓病変では、カンジテック® 陽性、血中 β -D-グルカン上昇をみる。

治療

入浴、清拭、亜鉛華軟膏などで病変部の清潔、乾燥を保つだけで軽快することが多い。抗真菌薬の外用が主に行われる。口腔カンジダ症ではアムホテリシン B シロップによる含嗽や、ミコナゾールゲルなどを用いる。女性の性器カンジダ症ではミコナゾール錠を用いる。重症例では抗真菌薬の経口投与や点滴静注が必要になることもある。

1. カンジダ性^{かんきつ}間擦疹 candidal intertrigo ★

発汗による多湿や不潔が誘因となって、皮膚と皮膚が擦れ合う部位（間擦部：陰股部、殿部、頸項部、腋窩、乳房下部など）に、境界鮮明な紅斑を形成する。辺縁に鱗屑や小膿疱を伴う。これらが進展すると、びらん面を呈し、二次性に細菌感染などを生じやすくなる。軽い瘙痒あるいは疼痛を訴えることがある。体部白癬、脂漏性皮膚炎、刺激性接触皮膚炎、Hailey-Hailey 病、乳房外 Paget 病^{パジェット}などとの鑑別を要する。

乳児の陰股部に生じるものを、カンジダ性おむつ皮膚炎 (candidal diaper dermatitis) あるいは乳児寄生菌性紅斑 (erythema mycoticum infantile) という。夏季の発汗が多い部位に発生するため、汗疹やおむつ皮膚炎（刺激性接触皮膚炎）との鑑別を要する。

2. カンジダ性指趾間びらん症 erosio interdigitalis blastomycetica ★

同義語：指間カンジダ症 (interdigital candidiasis)

第3指間が好発部位となる。指間に生じた紅斑は徐々に拡大し、中心に鮮紅色のびらんを形成する。周囲皮膚は白色調で浸軟する（図 25.14）。細菌感染を併発し、軽度の疼痛や瘙痒を伴うこともある。飲食店従業員など、水仕事に従事する者に好発する。

3. カンジダ性爪囲炎 candidal paronychia

カンジダ性指趾間びらん症と同様に、水仕事従事者に多い。手指の爪周囲に発赤、腫脹を生じる（図 25.15）。圧迫により